学習内容報告書 フォーマット

学校名	静岡県沼津市立静浦小中一貫学校
授業者	青木克憲

1. 単元計画

1-1. 単元名

地域防災を考えよう～もしもに備えて、今わたしたちができることは？～

1-2. 学年

中１（７年）

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間

1-4. 単元の概要

津波被害対策指定区域である静浦について、地震に対する防災意識と被災した後の生活について考える単元である。そのため、インタビューや実地調査、本、インターネットを活用して、個人テーマに対する情報を集め、整理・分析してまとめる活動を行なう。そして、そのまとめとして、地域の自治会役員が集まる「地域防災会議」に参加し、ポスターセッション形式で発表会を行い、今後の地域への防災に対する課題を考えることが大切である。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本単元のねらいは、津波被害対策指定区域になる静浦の地区における防災への取り組みを理解し、自分たちの地域のためにできる自己の役割を認識できるようにすることである。実地調査や地域防災会議の活動を通して、静浦における震災の予想される被害状況を改めて感じると共に、自治会の方との関わりから地域の一員としての自覚を感じる活動を行なう。学習後は、学習したことをもとに地域の方と現状の防災への取り組みを確認し、これからの防災に対する課題を考えていけるようにしていきたいと考える。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

・目標を設定し、課題解決に向けて計画的に行動する力
・観点を立てて情報を整理する力
・相手や目的に応じたプレゼンテーションをする力。
・課題の解決に向けて、地域の活動に参画する力。

1-7.　単元の展開（全１４時間）

時数	学習活動・主な内容	○教師の指導 / ☆主な評価 ・外部連携 / 使用教材等
1 2 3 4	○地震が起きたとき、自分や家族がどのような行動をとっているのかを想像する。 ○マンダラートを使って個人テーマを立てる。 ○調査計画を立て、課題解決に必要な準備をする。(2 時間)	○地区の防災担当との打ち合わせをする ○昨年度の防災対策会議の様子を見せる ○地域防災倉庫の管理者との連絡 ○課題解決のための情報収集、実地調査は、主に放課後、土日に行なう。 ☆自分の問いを解決するための調査計画を立てようとしている。(調査計画表)
5 6 7	○救命救急講座を受講し、自分たちができることについて考える。(3 時間)	○沼津市の救命救急指導員に来校・指導してもらうための打ち合わせをする。 ☆もしもの時に備えて、何をすればよいのかについて考えている。(態度・ふりかえり)
8 9 10 11 12	○同じ地区の友達と集めた情報を交換・整理する。 ○集めた情報をまとめ、主張（結論）を決める。 ○地域防災会議用のポスターをつくる。(3 時間)	○沼津市防災担当との打ち合わせ ○地区の代表者や関係職員との連絡 ○実際にポスターを作ったり、昨年のものを見せたり、書く項目を整理したりして子どもたちにポスター作成の見通しをもたせる。 ☆結論が伝わるようにポスターを作ることができる。(ポスター)
13 14	○地域防災会議において、地区の方たちと意見交換し、今後自分たちができることは何か考える。	○地域防災担当や町内会長などのゲストの人選、連絡をする。 ☆意見交換などの学習を生かし、地域防災への関心を高め、参加しようとしている。

2.　学習活動の実際

2-1.　単元における位置づけ

単元　14　時間中の　3　時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目　/ 単元 15 時間中の 4,5 時間目

2-2.　本時の目標

A　：個人テーマを解決するためにどんな情報が必要なのかを考えている。 ・求める情報に応じて、情報を集めるための調査方法を決定する。 ・調査方法が適切であるかをグループごとに検討して、調査計画を立てる。 A’：個人テーマを解決するためにはどのような情報が必要であるかを明確にし、その情報を集めるための調査計画を立てることができる。

2-3.　本時の展開

主な学習活動 / 反応	＊教師の指導・支援 / ☆評価の視点（方法）

○個人テーマはどのようなものになっただろうか。 ・地区の避難場所と経路はどうなっているのだろうか。 ・持っておくと良い避難グッズとはどのようなものだろう。 ・地震が起こる前に私たちにどんな準備ができるだろう。	＊個人のテーマを事前に確認しておく。
◎どうやって個人テーマを解決していけば良いだろう ○どんな調査方法があっただろうか。 ・実際にその場所に行くフィールドワークがあった。 ・アンケートをとる方法もあるな。 ・本やインターネットで情報を得ることもできるね。	＊５、６年次の学習を想起させながら、子どもの言葉を引き出していく。
○自分の個人テーマを解決するにはどんな情報が必要だろう。 ・避難場所までどのくらいかかるのか、実際に走って時間を計ってみよう。 ・地域の人はどのくらい防災グッズを準備しているのかをアンケートで調べよう。 ・今の状態で安心している人は地区にどのくらいいるのか聞いてみよう。 ・ハザードマップで危険区域となっている人たちはどう考えているのかインタビューしよう。 ・自分の住んでいる地域の避難場所は津波が来た時大丈夫なのかを防災マップで調べてみよう。	☆自分が必要とする情報に対して、適切な調査方法を設定し、調査計画を立てる。 （ワークシート・ふり返り） ☆調査方法が見通せない子どもには、個々に声かけして、計画を立てていく。
○情報収集のための計画を立てよう。 ・地域に配れるようにアンケート用紙を作ろう。 ・フィールドワークに行くために日程の確認をしよう。 ・必要な本が学校にあるかを確認しよう。 ○次の時間は調べてきた情報をグループごとに共有しよう。	※１週間後に経過を確認するように伝える。

3.　今回の活動の自己評価

個々の課題設定を終え、個人テーマの解決に向けて調査計画を立てていくのが、本時であった。前時までに個人テーマが明確になっていた子どもは、「これを調べなくてはならない」ということが分かっているため、必要な情報も定めやすく、調査計画も立てやすかった。しかし、まだ個人テーマの設定に手間取っている子どもは何を調べたら良いのか分からず、教師の支援がかなり必要になってしまった。また、事前に地域ごとに集まって個人テーマを検討しなかったため、子どものテーマが似てしまった所も見られてしまった。

１週間後に調査した内容を確認し、再び必要な情報を検討することをこの後行ったが、情報を集められていない子どもも見られた。平日活動することが難しいため、休業日に時間を取れるように猶予を持たせる必要があると感じた。

4.　今後の課題

１人１テーマで課題解決に取り組むことはとても良かったが、最終的に地域防災につなげるため、地域の子どもごとの個人テーマが重ならないように、事前に打ち合わせをしておく必要があった。また、個人テーマがいかに子どもに必要感のあるものかを、教師とのやりとりの中で確認し、丁寧に見取っておかなければならなかった。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

全国的に地震についての防災意識が高まっているが、特にもし地震が起きた時には確実にその被害を受ける地域であることを意識し、切実感をもって取り組む学習内容にしていきたい。想定外の地震が起きた時に中学生としての自分たちに何ができるのかを考えていくことで、大事な戦力としての意識付けになることも期待したい。